

科目名		テーマ		
生命倫理学 I		出生前診断と終末期ケアの現状と課題から、現代社会における生命／身体を巡る諸問題を考察する。		
担当者名	配当年次	単位数	学科	選択・必修／指定科目
坂田 勝彦	1年	2	社会福祉	必修

[授業の内容・到達目標]

【授業内容】

人間の誕生と死はこれまで、自然の営みの一環として普遍的なものと考えられてきた。しかし近年、医療技術の急激な進歩とともに、誕生についても死についてもその様相は大きく変化しており、私たちは現在、生と死を巡るイメージや倫理について改めて考え直す必要性に直面している

そこで本講義では、脳死や臓器移植、尊厳死といった具体的な諸問題を通して、生命倫理の全般にわたる問題点について検討する。

【到達目標】

現在、医療・福祉の在り方がマスコミなどで取り上げられるとき、「患者（利用者）の自己決定」や「インフォームド・コンセント」の重要性が説かれる。無論、その背景には、医療・福祉における人権侵害やパターナリズムの問題があるが、本講義はさらに一步進んで、「自己決定」や「インフォームド・コンセント」といった概念が覆い隠してしまう生命／身体を巡るリアリティについて理解を深めていくことで、福祉専門職に不可欠な対人関係・人間存在への共感的な視座の習得を目標にしている。

[授業方法]

本講義は、映像資料や文書資料を活用し、具体的なトピックスをもとにして授業を進めていく。その際、一人一人にあてて意見などを聞くこともあり、グループで話し合いそれぞれの意見をまとめて発表してもらう場合もある。授業の終わりには、その時間で学んだこととさらに聞きたいことについての小レポートを提出してもらう。

医療・福祉について関心を持つとともに、生命／身体を巡る様々な問題を私たちが生きる社会のアクチュアルな問題として積極的に考えてくれることを期待したい。

[成績評価の方法]

成績は、授業への参加度・発表内容（50%）、小レポート・筆記試験（50%）の総合的な評価で決定する。

[テキスト]

必要な資料は、授業で配布する。

[参考文献]

1. 米本昌平ほか編 2000『優生学と人間社会』講談社現代新書
2. 加藤秀一 2009『〈個〉から始まる生命論』NHKブックス
3. 斎藤有紀子ほか編 2003『母体保護法とわたしたち』明石書店

[履修上の注意・その他]

--

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	生命倫理とは何か？——現代社会における医療・福祉の諸問題を概観する
2	「優生学」というタブー——医療・福祉における封印された過去
3	「優生保護法」に見る戦後日本の医療・福祉——病者・障害者に対する排除の多層性
4	「出生前診断」の歴史的・社会的背景——「優生学」の現在（1）
5	「出征前診断」に対する違和・抵抗——「優生学」の現在（2）
6	「自己決定」という概念を巡って（1）——「インフォームド・コンセント」の歴史的背景
7	「自己決定」という概念を巡って（2）——その現状と課題
8	「自己決定」という概念を巡って（3）——「安楽死」と「尊厳死」
9	福祉国家の再編成——「優生学」に抗うことはいかにすれば可能か？
10	まとめ（I）
11	臓器移植が提起したもの（1）——身体を巡る現代社会の論理
12	臓器移植が提起したもの（2）——生命を巡る現代社会の倫理
13	「共鳴する死」（1）——「死」と「死にゆくこと」の習俗
14	「共鳴する死」（2）——「死にゆく者の孤独」について
15	まとめ（II）